令和８年度　よこはまのどうぶつえん

合同公開飼育研究会



令和８年 12 月６日（日）

野毛山動物園 なかよし休憩所

〇日時：令和 8 年 12 月 6 日（日） 13:30～15:30

〇場所：野毛山動物園　なかよし休憩所

〇発表演題及びスケジュール

13:15～　　開場　受付

13:30～　　開会の挨拶

13:35～　　挨拶　野毛山動物園長

13:40～　　演題 1　犬用ミルクを使用したアカカンガルーの人工哺育一例

よこはま動物園　飼育展示係

14:00～　　演題 2　金沢動物園でのニホンライチョウ飼育開始について

金沢動物園　飼育展示係

14:20～14:30　休憩

14:30～　　演題 3　横浜市内におけるムカシツチガエルの試験放野について

よこはま動物園　繁殖センター

14:50～　　演題 4　マヌルネコ新規受け入れから半年間の夜間行動調査

野毛山動物園　飼育展示係

15:10～　　質疑応答・閉会の挨拶

※ 発表時間は 20 分です。（質疑応答含む）

※ 発表開始 15 分で予鈴、20 分で本鈴を鳴らします。

犬用ミルクを使用したアカカンガルーの人工哺育一例

よこはま動物園で飼育するアカカンガルーの母獣の育児嚢から落下した嚢児を人工哺育する機会を得ました。哺乳の際に使用するミルクには有袋類用のものが市販されていますが、今回は入手のしやすさや国内で成功例があることから犬用ミルクを使用して人工哺育を行いました。しかし、犬用ミルクによる人工哺育では乳糖不耐症による下痢や白内障が発症する可能性もあったため、ミルクの濃度に注意し、瞳孔を観察しながら人工哺育を行いました。今回の個体では、哺乳開始時(187 日齢)に使用したワンラックドッグミルク®の規定濃度 16.67%よりも濃度の薄い 4.76%から開始し、徐々に濃度を上げ、2 種類の犬用ミルクの成分を比較し、より母乳に近いミルクを給与するために少しずつワンラックドッグミルクからエスビラック犬用ミルクパウダーへの切り替えを行い、206 日齢からはエスビラック犬用ミルクパウダーのみでの哺乳を行いました。大きく便状を崩すことなく、体重も順調に増加し、白内障の発症もなく人工哺育を終了したため、その経過を報告します。

よこはま動物園　飼育展示係





金沢動物園でのニホンライチョウ飼育開始について

ニホンライチョウは国の特別天然記念物に指定され、南アルプスなど国内 5 カ所の標高2,200～2,400m以上の高山帯に生息しています。1980 年代には約 3,000 羽と推定されていましたが、2000 年代の調査では 2,000 羽弱まで生息数が減少し、環境省第 4 次レッドリスト絶滅危惧ⅠB類に分類されています。

「ライチョウ保護増殖事業実施計画」では、生息数が減少するニホンライチョウを生息地域の内と･生息地域の外での保全活動が記されていて、生息地の外での保全（域外保全）として動物園での取り組みが明記されています。（公社）日本動物園水族館協会（以下「JAZA」）のライチョウ生息域外保全実施計画に基づき、JAZAに加盟する動物園で連携して繁殖、飼育技術の確立や教育普及を行っています。金沢動物園には平成 28 年 3 月、横浜市繁殖センターで繁殖したスバールバルライチョウを移管し，空調管理可能なシロイワヤギ舎で飼育を開始しました。ニホンライチョウは令和 4 年、「第二期ライチョウ保護増殖事業実施計画」に基づき、他園の飼育管理スペース確保に寄与することと、展示を通じた教育普及活動の役割を担うために飼育を始めました。

今回は、金沢動物園でのニホンライチョウの飼育開始の経過と保護増殖事業実施計画の一環として実施された、動物園で繁殖したニホンライチョウを野生に戻す「野生復帰」という取り組みについてご紹介します。

金沢動物園　飼育展示係





横浜市内におけるムカシツチガエルの試験放野について

ムカシツチガエルは、関東から東北地方の太平洋側に分布するカエルで、横浜市内では2016～2017 年の水田域における生息調査で本種の繁殖が確認されたのは市北部の民有地1 か所で、地域絶滅が危惧される状況です。そこで繁殖センターでは、本種の域外保全を開始し、飼育下繁殖に取り組んできました。さらに、かつて生息が確認されていた地域の環境調査を行い、市民団体・大学・市関係部署等と連携して 2021 年から試験放野を開始し、2021～2023 年には成体・幼体 863 匹、幼生 4,995 匹、2024～2026 年には成体 331 匹、幼生 40,454 匹を放野しました。2023 年度以降、放野個体に由来すると考えられる卵塊も確認されています。また、2022 年からは地域の小学校と連携し、学校内のビオトープ池への幼生放流や児童への学習機会を設けるなど、保全活動を進めています。今後も生息状況を継続的に調査し、地域個体群の定着を目指していきます。

よこはま動物園　繁殖センター





マヌルネコ新規受け入れから半年間の夜間行動調査

野毛山動物園では、リニューアルプランに則り、2025 年 11 月 10 日にマヌルネコの飼育を開始しました。マヌルネコの生態への理解を深め、新施設の設計に反映し、また、施設移動におけるストレス行動を把握し、適切な飼育管理に生かすため、搬入当日より、日中のみならず夜間の行動観察を継続してきました。今回は、夜間行動に重点を置き、搬入より半年間のマヌルネコの様子を振り返ります。

マヌルネコは、遮るものの少ない乾燥した草原に生息しており、主な天敵はワシなどの猛禽類です。それらから身を守るため、岩の割れ目などに身を潜める性質を有し、飼育下でも、慎重でストレスに弱い種として知られています。そのため、施設移動後の行動をモニタリングすることは、飼育管理の上で重要な項目であると考えられます。野毛山動物園では、搬入前より、日本大学生物資源科学部との共同研究で、継続的なマヌルネコの行動観察を計画し、飼育スペースに 4 つの赤外線カメラを設置しました。18 時から翌朝 8 時までの 14 時間の行動を週 1 回程度記録した結果、休息時間の平均は 10 時間 35 分、活動時間の平均は 3 時間 24 分であり、夜間は主に休息時間に充てていることがわかりました。また、休息場所の変遷も確認できました。今後も、行動やホルモン動態より、種の特性や個体の性質を把握し、新施設での展示に寄与する知見の蓄積を継続します。

野毛山動物園　飼育展示係



